

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 26

「貧しさより富を欲することなく、、、」

校長 大矢正則

2021年に斎藤幸平著『人新世の「資本論」』がベストセラーになって以来、資本論や資本主義に関する新書等が多数発刊され、ブームになりました。資本主義経済が回っていくためには、大量消費という言葉に象徴される中心地域と、安い労働力を確保できる周縁地域が必要です。この中心と周縁とは、欧米と植民地に対応すると言ってもいいでしょう。しかし、グローバル化された社会においては、米国製の自動車が行き回り、GAFAと呼ばれたIT産業がネットを牛耳っています。その結果、資本主義経済における中心・周縁という概念は、国の経済力というレベルから、それぞれの国の中の生活水準の異なる階層レベルへと、パラダイムシフトしました。

これを世界は「発展」とみてきたわけですが、しかし、このような発展は必ずしも幸福や豊かさにつながっているとはいえません。このようなことを、ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏が地球サミット（リオ会議）でスピーチしてから12年も経ちます。

実際、大量生産・大量消費の社会経済システムは、同時に大量廃棄社会を作り出しました。2020年の世界で生産された食品のうち約40パーセント（約25億トン）が1年間で廃棄されています。これは10年前の約2倍の量です。大量に廃棄された食品はゴミとして焼却されるため、その処理する際に温室効果ガス（CO2）が大量に排出されます。食品ロスは、地球温暖化の一因にもなっているのです。

もしも食品ロスがなければ、世界中みんなが十分に食べられる食料が作られているという計算になります。にもかかわらず8億人以上の人々、すなわち10人に1人が飢餓状態にあります。

国内においても2020年度の年間食品ロス量は520万トンとなっています。国民1人当たりの食品ロス量

は1日113グラム。これはお茶碗約1杯分のご飯に近い量です。年間に換算すると、1人当たり約41キログラムの食品が廃棄されています。消費は廃棄と切っても切れない関係にあるわけです。

偶像崇拜は何の恵みも人間に与えませんが、私たち現代人は知らず知らずのうちに、「消費」を崇拜してきたのではないのでしょうか。同時に廃棄さえ崇拜するようになっています。「断捨離」が長い間ブームになっていることは何とも皮肉な現象です。

私たちはこの空しい偶像崇拜から回心し、本当に必要なものを選ぶ習慣を身につけていきたいものです。

これを実現するためには、私たちは何かを選ぶときに、というよりも何かを選ぶときの心構え---心の向き---を調えるためにも、静かな祈りの時間を持つことが大切です。何かを選ぶとき、その選びに私が招かれているのか。言いかえれば神様は私に何を準備して下さっているのかを、沈黙の祈りの中で、神様に聞くという態度が必要です。イグナチオ・デ・ロヨラという聖人は、私たちが何かを選ぶ際に依って立つべき態度について、世界的にも稀な優れた方法を示しています。これについて詳細は、教文館『霊操』の「原理と基礎」をご参照ください。『霊操』は岩波文庫にも収められています。ここでは、イエズス会の片柳弘史神父様がご自身のブログ「道の途中で」に掲載している「原理と基礎」の要点を紹介します。

「わたしたち人間は神を愛するためだけに創造された、その目的を達成するために人間に被造物が与えられた、それゆえ、いかなる被造物にも執着せず、神への愛をすべてに優先する。」

この中に出てくる、いかなる被造物にも執着せずというところですが、具体的には、「私たちの方からは、病気よりも健康を、貧しさよりも富を、不名誉よりも名誉を、短命よりも長寿などを欲することなく、ただわたしたちが造られた目的へよりよく導いてくれるものだけを望み、選ぶ」ということになります。

中学校・高等学校

「晴天の体育祭」

体育祭委員長 高等部2年 S・A

私は今回、体育祭委員長を務めていく中で強い責任を感じるようになりました。それは幼稚園児にとっては最後の体育祭参加だったからです。幼小中高が揃って行う体育祭は今年で最後でした。委員長として全体をまとめることに不安がありましたが、準備していく中で素晴らしい体育祭に仕上げようと少しずつ考えるようになりました。みんなが素晴らしいと思う体育

祭はどのような体育祭だろうと考え、参加している園児・児童・生徒だけではなく、見に来た方にも楽しいと思ってもらえる体育祭にしようと思うようになりました。実際に体育祭を終えた感想としては、大きな失敗も起こらず最後まで予定通り進めることができ安心しました。また、体育祭委員としてただ単に競技の進行や準備をするのではなく、気持ち良く活動している姿を見てもらおうと取り組むことができました。

今回体育祭委員長として学んだことは、完璧ではなくても精一杯取り組むことで、周りにも何か影響を与えることができるのではないかとということです。一生懸命取り組んだ園児・児童・生徒はもちろん、見に来てくださった方にも何か感じてもらえる体育祭となっていたならうれしく思います。

高校学習旅行を終えて

学習旅行企画委員長 高等部2年 A・N

私たち58期生は、昨年1月から少しずつ学習旅行に向けて準備してきました。一番初めに学習旅行のテーマ案を出し合い、「糸」という一文字にしました。この言葉には、「学年みんなの繋がり、絆を糸のように深めたい」という思いを込めました。また、これまでの行事で私たちは一人ひとりの個性や強みを活かして協力し、よりよいものを創り上げることができたと思っています。学習旅行が終わると本格的に自分たちの進路実現に向けて動き始める時期になります。そんな中で焦ることがあっても、私たちを結ぶ「糸」があるということ、全員が感じられるようにこのテーマを選びました。テーマ決め、個人でのプレゼンテーションを経て、何度も壁にぶつかりながらも繰り返し投票し、目的地を「沖縄県」に決めました。

5月には昨年先輩方が行われた個人テーマの研究展

示の試みを引き継いでほしいという大矢先生のお話を受けて本格的な活動が始まりました。各自で個人テーマを立てて、それに向けて学習旅行の予定を練っていくことになりました。その過程で様々な意見の食い違いなどがありながらも、そのたびに話し合いを重ねるなどして、問題を一つずつ解決していきました。現地沖縄での旅行中もその力は発揮され学習旅行は充実したものになりました。

1日目は平和祈念公園と山城本部壕に行きました。特に、山城本部壕では沖縄戦の悲惨さを身をもって感じました。2日目は班活動で各自の個人テーマに合わせたそれぞれの目的地で見学や体験学習を行いました。沖縄は気温だけでなく現地の皆さんの人柄もとても温かく、私たちの不安を消し去ってくれました。3日目はカトリック開南教会と首里城に行きました。旅行前は首里城が火災で失われたことをただただ残念に思うばかりでしたが、実際に再建中の首里城を見てみて、首里城の復興が楽しみになりました。

学習旅行に行って今回様々な事や、慣れない土地での活動はみんな大変だったと思いますが、個人テーマへの理解が深まり、貴重な情報を得ることができました。また協力し、支え合うことの大切さを学ぶことができました。論文発表を成功させられるようにこの後も準備を進めていきたいと思えます。

最後になりますが、学年のみんな、先生方、家族、現地の方々、学習旅行に関わってくださった全ての方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



心の灯火

聖書朝礼委員長 高等部2年 N・S

緊急事態宣言が解除されてから数ヶ月が経過し、次第に本来の東星学園のあるべき姿へと回復しつつあります。一方、ロシア・ウクライナ間では戦争が続いており、パレスチナでは更なる戦争が勃発し、未だ絶え間なく、犠牲者が増え続けています。今年のクリスマス会テーマ「心の灯火」は「一人一人が温かい気持ちでクリスマス会に臨むことができるように」という聖書朝礼委員の想いが込められています。今回のクリスマス会では、ミサに参加された方々が自分の心の灯火を意識し、イエス様の誕生、そして今も苦しんでいる世界中の人々のために深くお祈りができるよい機会になったのではないかと思います。

毎年、クリスマスまでの待降節の期間では、聖書朝礼委員が決めた「週ごとの約束」を心に留めながら学園生活を過ごします。約束事を守ることができたら、各クラスに設置される用紙にシールを貼っていきます。今回の約束事は、第一週目「心を込めてお祈りしよう」第二週目「日々の生活に感謝しよう」第三週目「大切な人の笑顔を大切にしよう」でした。最後には各クラスの用紙を組み合わせ、大きな本の形に仕上げ、クリスマス・ミサで奉納しました。その他、馬小屋の設置やクリスマスツリーの飾り付け、クリスマス献金の呼びかけなど、クリスマスを迎えるために少しずつクリスマスへの準備を進めていきました。

また、今年度のクリスマス会では、数年ぶりに聖書朝礼委員会夏季研修の展示も行いま

した。今年度の夏は、明治大学平和教育登戸研究所資料館を訪問しました。そこはかつて旧日本軍が秘密戦のための兵器・資材を研究開発するために設置した研究所です。聖書朝礼委員一人一人が戦争と平和について真摯に向き合い、皆で展示の準備に励みました。

今年度のクリスマス献金は、聖書朝礼委員会で真剣に話し合い、ユニセフのガザ人道危機緊急募金に決定しました。今年も多くの方のご協力のおかげで、19895円が集まりました。集まったお金は、ガザ地区の子どもたちの支援に役立てられる予定です。皆さま、ご協力ありがとうございました。

2024年という新しい年を迎えましたが、新年から地震や事故などが相次ぎ、未だウクライナやガザ地区では戦争が続いています。今の私たちができることとして、2024年も神様からの御恵みに感謝し、一刻も早く世界に平和が訪れるようにお祈りを続けていきたいと思ひます。



卒業に向けて

卒業式企画委員長 高等部3年 U・S

私たちの学年はまもなく卒業します。六年間を振り返って最も強く感じたのは仲間の存在です。私たちはとても仲間思いで明るい学年でした。学習旅行の企画をするとき、困難に陥ったとき、いつも仲間を支えられてきました。先生方もまるで仲間のようにときには厳しく、ときには優しく私たちを支えてくれました。さて、私たちは卒業式のテーマに「笑顔」を選びました。私たちの学年にとってもよく似合うという理由で選ばれたこのテーマですが、笑顔の似合う学年でいられたのは先生方の支え、そして大切な仲間たちあってのことだと思ひます。みんなには本当に感謝しています。中高六年間、私たちがアイデンティティを確立するこの

時期にこのような素晴らしい仲間に恵まれたことを心から幸せに思ひます。これから、私たちはそれぞれ自分の道を歩いていきます。率直に言えば、私は自分の進路に不安があります。自分が何をしたいのかまだ自分でもよく分かりません。しかし、むしろその不確定さこそが私たちの未来の可能性なのではないかとも思ひます。私たちの学年は困難に陥ったとき、「下手でもなんでも自分なりに解決しよう」と踏ん張り、そして、ピンチを乗り越えるたびに成長してきました。この六年間のことを思い出すと、未来にどんな困難が待ち受けていようときっと大丈夫だという勇気が湧いてきます。将来のことは分かりませんが、私たちに乗り越えて成長できると思うと未来が楽しみです。卒業式の日に素敵な笑顔で体育館をあとにすることができるよう、これから東星学園で過ごすわずかな時間を仲間とともに大切に過ごしていきたいです。

小学校

東星バザー

4年担任

10月29日、第61回東星バザーが行われました。幼稚園、小学校、中高が一体となる行事のひとつで、今年は4年ぶりに午後までの開催となりました。小学校では、制作コーナー、ゲームコーナー、軽食コーナーなどを担当し、主に高学年の子どもたちがお仕事をしました。また、たくさんの保護者の方にもお手伝いいただきました。

当日の朝、早く来て準備をする子どもたちは、最後の確認を終え、各自の持ち場にスタンバイします。低



学年の子どもたちも元気に登校し、くじ引きの列に並んで今か今かと待っています。若干お天気が心配でしたが、徐々に青空が見えはじめました。さあ、いよいよバザー開始です。

制作コーナーには、手芸クラブとアートクラブの児童がつくったものや保護者の方がつくってくださったものなど、たくさんの制作品が並びました。「どれにしようかな」「これ、かわいいな」と、制作品を目の前にじっくり悩む子どもたち。販売のお仕事をした高学年の児童も、はじめは緊張している様子でしたが、少しずつ慣れていき、最後には楽しかったと笑顔で話してくれました。ゲームコーナーは、児童会、卓球クラブ、野球クラブ、インドアスポーツクラブの児童が各ゲームを担当しました。ゲームに参加した子どもたちはもちろん、お仕事をした高学年の児童もとても生き生きしていました。軽食コーナーでは、5年生がウエイターとして一生懸命働きました。言葉遣いや身だしなみを一人ひとりが意識し、気持ちよくお仕事ができたように思います。さらに、6年生は、歌声広場で堂々と歌を披露しました。子どもたちの素敵な歌声は、きっと多くの人の心に届いたことでしょう。

子どもたち、そしてたくさんの保護者の方のお力もあって、今年も素敵なバザーとなりました。来年はどんなバザーになるのか、今からとても楽しみです。

展示会～東星の輪・和・WA～～～！

図工科

2年に1度開催される東星学園小学校の展示会は、教科学習や行事を通じた学びの成果を発表します。今回のテーマは、子どもたちの学習と成長が「輪」のようにつながり、「和」を生み出していくことができるように、また、表現や課題を楽しめるようにという思いを表現したものです。教科ごとの学習成果はもちろん、教科同士のコラボレーションによる彩りあふれた東星教育をご覧いただけるよう工夫しています。課題を通じては、ともに学び合うことを大切に学びを深め、表現する力、伝える力を磨くことを目指しました。また、鑑賞を通じては、一人ひとりの取り組みや表現を尊重する態度を育み、展示会が互いを認め合える場となるよう準備を進めました。

2日間の展示のために広い体育館を準備するのは高学年の児童です。まず、大きな展示板や台を運び込み、レイアウト図を確認しながら展示用備品を設置して会場を準備します。次に2～3人一組でコーナーごとの作品展示を行います。丁寧に展示するだけでなく、レイアウトのバランスを考えて作品がより映えるような展示を提案する児童もいます。会場作りや展示をチームで行う中で、子どもたちは思考力、判断力を働かせ、大きな行事を実現させる力を培っていきます。

授業参観日を兼ねていた土曜日の展示会場には多くの来場がありました。おうちの方に自分の頑張りを見てもらえるうれしさでいっぱいの子どもの姿は輝いていました。5年生のグループ作品「絵の中にワープ」は、名画の模写に顔をはめこめる体験型の展示です。5.6年生の案内係が記念撮影のシャッターを切ってあげるなど、作品をめぐる様々な交流がうまれていました。東星の子どもたちの素直な表現や真剣な取り組みが、ご覧になった方の心に響いていれば幸いです。展示会場がまさらの体育館に戻ったとき、子どもたちの顔には疲れもみられましたが、同時に清々しい表情でもありました。東星のみんなで作った「輪」「和」「WA～～～！」の展示会は、つくるよろこび、見るよろこびにあふれるものになりました。



クリスマス会

5年担任

12月20日にクリスマス会がありました。子どもたちは、クリスマス会に向けて、ロビーや会場となる講堂のクリスマス飾りを作る等、各学年で様々な準備をしてきました。また、今年度のクリスマス会のテーマである、「やさしさのプレゼント」について考え、実行していく心の準備もしました。

当日は、インフルエンザ感染予防のため、一堂に会してのクリスマス会とはいかず、学年に応じて、会場と教室での配信とに分かれてのクリスマス会となりましたが、心を一つに、クリスマス会を楽しむことができました。

第一部はクリスマスミサでした。神父様から、相手の立場に立って考えることの大切さを教えていただき、心を込めてお祈りしました。

第二部は、5年生による聖劇「ダビデの町ベトレヘム」を見ました。5年生は、この日のために、たくさん練習を重ねてきました。台詞の暗記はもちろん、台詞を話すタイミングや照明をつけるタイミングなど、覚えることはたくさんあります。それぞれが、自分の役割に真摯に向き合い、お互いにアドバイスをし、協力し

合いながら、力を合わせて聖劇を作り上げてきました。本番は、緊張しながらも、いつも以上の力を発揮することができました。

クリスマス会の最後、第三部は、6年生の合奏に合わせて歌をうたう、「みんなであたおうクリスマス」でした。6年生もたくさんの練習を重ねてこの日を迎えました。6年生の器楽合奏に合わせて、子どもたちは楽しく元気に歌をうたい、クリスマス会の幕は閉じました。

クリスマス会の後は、小学校全児童と教職員のクリスマスカード交換がありました。それぞれが心を込めて作ったカードをうれしそうに持って帰った子どもたちでした。



2023 スキー教室

体育科

12月26日(火)～28日(木)長野県東御市にある湯ノ丸高原スキー場にてスキー教室が行われました。異常気象の影響により積雪30cm程でしたが、日本アルプスを望めるほど3日間晴天に恵まれ、実施することができました。

開校式後は、初級から中上級の1～5班に分かれ、いよいよ教室の始まりです。スキー教室は、一人一人のレベルに合わせた班にインストラクターと教員が



き行われます。初心者は板のはめ方や転び方、起き方などを学び、平坦で雪に慣れてから斜面へ移動し、少しずつ滑る練習を行いました。初級、中上級者は、ボーゲンやターンなど、トレインで確認をしながら初滑りを楽しむ姿が見られました。

他の宿泊行事と大きく異なるのが、高原ならではのソフトクリームを食べたり、部屋でテレビを見たり、カードゲームを楽しめること、その他夜のミーティングでは、その日の振り返りをするなどがあげられます。自主参加のスキー教室では、「楽しい♪」で終わるのではなく、技術を確認し上達していることを実感できるように行います。今回ゲレンデに限られたことで子どもたち同士、例年にはない光景が見られました。思うように滑れなく凹んでいたり林の方に突っ込み転んだままの児童、トレインがきれいな班、お互い上達したスキーの様子など、リフトとゲレンデから場面に合った声の掛け合いが見られました。

閉校式では、スキーの魅力を感じた児童達からは「まだ滑っていたい!」といった声が数多く聞こえました。親元を離れ他学年と様々な場面で協力をし過ごす経験は、スキー教室の良さと感じています。

今年スキー教室を実施できたことを感謝すると共にお子様が雄大な自然に触れる機会とご協力をいただきました保護者の皆様にも感謝いたします。

幼稚園

縦割り保育

園長 堀田しのぶ

東星学園幼稚園は、縦割り保育を行っています。縦割り保育とは、年齢混合で保育を行うことです。現在は園児数も少なく、自ずと年少から年長まで全員で生活する流れになっていますが、ずっと縦割り保育を行ってきたので、子ども達も職員も年齢がちがう友だちと一緒に活動することが自然なことになっています。

昨年秋の体育祭では、校庭の200mトラックを使って縦割り2チーム対抗のオセロリレーをしました。トラックの約半周を年少から年長まで一人ずつ走ってバトンをつなぎました。当初は、半周(100m)は無理だろうと思いましたが、試しに走ってみると、なんと年少児も全員がきっちり走り切ることができ、職員を驚かせました。振り返ってみると幼稚園の運動会の全員リレーから、園庭でのリレー遊びは日常のものになり、みんなよく走っていました。ちゃんと順番を決めてチーム戦になることは稀でいたいとはとにかくバトンをつないで走り続け

る「エンドレスリレー」となります。そこには年齢に関係なく走りたい子が集まります。大きい子ばかりだから入りにくいとか、年下の中に入るの…などということはありません。走りたい子が集まって一緒に走っていました。そんな積み重ねでまだまだ体の小さい年少児も100mを難なく走り切れる体力がついていました。こんな風に年齢の壁を取り払って一緒に過ごしながら、年下の子は年上の子がどんな風に自分達を労わってくれているか、どんな風にリーダーシップを示しているかを学びます。同時に年齢に関係なくお互いに得意不得意を認め合って活動することも経験します。縦割り保育では、日々のそんな生活の中で「年上の自分」や「走るのが好きな自分」「絵を描くのが苦手な自分」など、自分のいろいろな面を自然に表し、お互いに尊重して生活しています。

縦割り保育を基本としますが、活動の内容によっては年齢ごとに行います。同年齢だけになると、縦割りの時に見せる顔とはまた違い、話し合いが意外な方向に膨らんだり、活動が盛り上がることもあり、人数が少ない中でもいろいろな関わりをもって活動することの重要性も感じます。

来年度は、年中・年長の2学年のみの幼稚園ですが、今年度までの経験を大切に子ども達が自分の選択を信じて、のびのびと探求できるよう援助していきます。みんなで協力して、子どもも大人もワクワクする毎日していきます。

クリスマス会

幼稚園職員

11月に入り、子ども達とクリスマスに向けて準備を始めてきました。まずたくさんの方のクリスマスのお話を読み聞かせました。物語を大まかに伝える本、動物がメインの本、博士が主人公に描かれている本…と様々です。内容が様々で話が混じってしまうのではないかと少し心配しましたが、子ども達は年少の時からのお兄さんお姉さんがお話ししてくれていた話を見聞きしていたこともあってかすぐに理解。みんなで内容を確認すると登場人物、ストーリー、その場で必要な言葉などポンポンと子ども達から意見が出てきました。話を進めていると子どもから「劇やってみたい!」と声が挙がり、何も無い所で子ども達が自然と劇を始めていました。「先生はお話進めてね」と言われたので「マリアがいました。」など子ども達から出ていた話をもとにおおよその内容で話を進めていきました。子ども達は役を変え何日も劇あそびを楽しみました。とても楽しかったようで登園するとすぐに「先生おはよう!今日は劇あそびする?」と聞く子がいました。性別関係なく全ての役を楽しむ子、やり

たい役を繰り返し楽しむ子、いくつかのやってみたい役を順に楽しむ子と様々でした。どの子ども目を輝かせて取り組んでいた姿が印象的でした。

劇あそびを何日間かしていた頃、「私マリア様やりたい!」という子がいました。「今日もマリア様やるの?」と問うと「ううん。ずっとマリア様やりたいの!」という声が挙がり配役決めを行いました。

役決め、友だちと相談し考えた小道具を作り、劇あそびと子ども達だけでどんどん話し合い、進めようとする姿が多く見られました。リハーサルの動画を見た後も「ここは正面見ないと顔が見えないよ」「歌はとっても良かったよ」と友だちと意見交換をしていました。様々な場で子ども達の成長を感じられました。わずか2か月弱の活動でしたが、「子ども達がみんなで一つの物を作り上げようとする」そんな力が日々の生活からも感じられるクリスマス会となりました。

「ドキドキしたけど聖劇たのしかったね!」



『千支』でモチーフとカッコー!!! してとってモモチー

とうせいキッズ とうせいキッズ職員

(ちょっとテンションが上がって
大きく描いてしまいました。
すみません)

あけましておめでとうございます!!
とうせいキッズのかっしーです。
いきなりクジラがどどーんと出てきて
ますが、今年の千支である龍と関係がある
のです!! クジラって良いですよ。現実
に居るのに神話性がある。何故か惹
かれてしまいます。って訳で今回は千支です。

今年(ことし)は辰年(とねね)です。
千支(じふにえ)の文化(ぶんか)
は色々な国(くに)でもありますが、
国(くに)によって十二支(じふにえ)のメンバー(メンバー)は
違(ちが)ったりします。私は(わたし)良くクジラ(くじら)
をモチーフ(モチーフ)に使う(つか)うのですが、なんし
イラン(iran)では龍(りゆう)ではなくクジラ(くじら)なのです!!
ファンタジー(fantasy)じゃなく現実的(げんじつてき)な所(ところ)が
イネ!! ちなみにトルコ(トルコ)では
サカナ(さかな)だったりします。あとは
ほとんどドラゴン(ドラゴン) (人気(にんき)だねー。)

他国(たこく)の文化(ぶんか)を知る(しる)のも
見聞(けんぶん)を広(ひろ)げる良(よ)い事(こと)です。ちなみ
にアラビア(アラビア)ではワニ(わに)だそ
うです。かっしー(かっしー)でした。



広 報

本学園の広報活動についてお知らせいたします。

【小学校】

オープンキャンパス 3月13日(水)・14日(木)

- ① 9:40～10:30 (受付開始 9:30)
- ② 13:45～14:35 (受付開始 13:35)

【中学校】

入学試験

- 第1回一般(2科):2月1日(木) AM
- 国語1教科 :2月1日(木) PM
- 第2回一般(2科):2月2日(金) AM

第3回一般(2科):2月2日(金) PM

第4回一般(2科):2月4日(日) AM

願書受付

第1回一般:1月10日(水)～1月31日(水)

国語1教科:1月10日(水)～2月1日(木)

第2回一般:1月10日(水)～2月1日(木)

第3回一般:1月10日(水)～2月2日(金)

第4回一般:1月10日(水)～2月3日(土)

【高等学校】

一般入試:2月10日(土)

願書受付:1月25日(木)～2月8日(木)

☆中学入試、高校入試の2次募集や追加募集を実施する場合、本学園HPにてお知らせいたします。

学園行事予定 (2024年2月・3月)

	中学校・高等学校	小学校	幼稚園
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学入学試験 ・高校一般入学試験 ・漢字検定 ・数学検定 ・新入生制服採寸 ・送別会 ・卒業感謝のミサ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生クラブ仮入部 ・児童会役員選挙 ・遊びバイキング(5・6時間目) ・高学年朗読大会 ・児童会役員認証式 ・1～5年生懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分、豆まき ・お誕生会 ・個別面談
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式 ・祈りの集い ・英語村(中学3年生) ・進級判定会 ・終業式 ・合唱団・室内楽部定期演奏会 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を送る会 ・卒業感謝のミサ ・6年生懇談会 ・卒業式 ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・お誕生会 ・卒園式 ・3学期終業式

園児・児童・生徒の活動報告

【表彰】

第200回清瀬市秋季市民卓球大会

小学生の部

準優勝 5年生 W・M

第9回 多摩産材木工工作コンクール

入選 アートクラブ 5年生 I・Y

K・R

令和5年度東京都明るい選挙ポスターコンクール

優秀賞 高等部2年 T・K

令和5年度中学生の「税についての作文」

東村山税務署長賞 中等部3年 T・Y

令和5年度 中学生の「税についての標語」

立川都税事務所長賞 中等部2年 S・S

編集後記

今年度は新型コロナの分類が5類になり、様々な行事が通常に近い状態で行われました。マスク無しで子ども達の笑顔も多くみられるようになったことを嬉しく思います。今年も神さまに見守られ子ども達が心身ともに大きくなれますように。

(幼稚園)